



## 対話内容 抜粋

### 対話の中に見える、本園らしさ

- ・「歴史があつての今」「自分たちの理論を踏まえた実践をしており、それをそれぞれの教師が語れている」
- ・「行為としての教育では、子どもが教え合っていることで充実している。満足していると、教えたいくなる」
- ・「全体活動の道筋が、学級によって全然違う」
- ・「資質・能力ベースのカリキュラムでも、対象に出会い選択する機会は重要。子どもの興味がなくても出会う機会は保障したい。そのためにタイミングが重要。」



### どう研修をデザインしたいのか？

- ・「私たちが正解」にはしたくない。価値は多様でありたい。その時、その場で意味を生成したい。  
「正しさ」に捉われなくても良い。  
どう捉えたのか、なぜそう捉えたのか、その人がどのように視点をもったのかを大切にしたい。
- 参観者の興味で参観場面を選択することが  
研修での学びの仕掛けであることを確認することができるか？
- ・対話の仕掛けをどう作るのか。ファシリテーターの問い方を工夫し、「担任への質問」にならないようにするには。

### 「研修」で大切にしたいことは何か？

- A：保育を共有する研修が大切。  
写真やエピソードなどを共有する。
- B：その場での意味の生成を大切にしたい。  
その意味で「共有」とは一体何を指すのか。
- C：写真だとそこに引っ張られてしまう恐れがある。  
すでにそこには意図があるからフラットにはならない。
- D：対話で自分の捉えを理解していく研修では、対象が映像という一つの事実である必要があるのか？
- E：その意味で、「指導案」という考え方も問い直していきたい。